

2期目始動直後に衝撃

自治体首長や知事ら悼む

安曇野市長の太田寛さんが死去した。県職員から副知事となり、ふるさとの市長に転身した太田さんは人脈が広く、博学だった。市長2期目のスタートを切り、精力的に公務をこなす中で突然の訃報を、関係者は衝撃を持って受け止めた。

松本市の臥雲義尚市長は東京出張の移動中に訃報を知った。「副知事の経験と深い愛郷心を胸に、安曇野の魅

力を高めていた最中のろうと思う」と悔やんご逝去。さぞ無念である。塩尻市の百瀬敬市

長は、27日夜の会合で同席し、せきをする姿に「風邪をひかれたのか」と気にかけた。

「相談には的確な答えをいただいた。太田市長の意をくんで、中信

地域の発展を進めた」と話した。

松本深志高校時代に同級生で、親交が深かった生坂村の藤澤泰彦村長は「友達が多

く、頭が良かった。安曇野市は、来年創立150周年を迎える

立150周年を迎える深志高の同窓会長だった。副会長の赤羽総一

郎さん(71)は「松本市

管部は「皆さんを束ね、対外的に事業を発信していく役目は太田さんでなければできなかった」と、失った存在の大きさを語った。



副知事時代、母校の堀金小学校で講演する太田寛さん(令和元年6月14日)

口減など山積する課題に一生懸命取り組まれた。本当に木曾のことを思ってくれた」としのんだ。阿部守一知事は「副知事として力強く支えていただいた。市長として市政の振興に昼夜を分かたぬ献身を重ね、あまたの功績に深甚なる敬意と感謝の意を表します」とのコメントを発表した。

太田さんは、来年創立150周年を迎える

安曇野の文化と自然に詳しい、元市職員で三郷昆虫クラブ世話人の那須野雅好さん(65)は「安曇野市三郷温は「市長就任時、全職員にこれからのアイデアを募った。そんな市長は初めて」と太田さんの姿勢に共感し、訃報に「文化政策に力を注がれていた。非常に残念」と肩を落とした。(取材班)